

甲状腺外科草子 7

平安時代の病気：百人一首

杉野 圭三

百人一首を詠んだ歌人達の逸話が多いが、生年、没年、病気や死因の記述も稀である。伝説や逸話の中から興味のある出来事を記す。

40 番、平兼盛 (?—990)

恐れど色に出にけりわが恋は

ものや思うと人の問ふまで

訳不要、天徳 4 年 (960)、村上天皇の内裏歌合で 41 番の壬生忠見との勝負となり、判者が迷ったところ天皇が「恐れど」と呟いたため兼盛の勝ちとなったという話が残された。



平兼盛



壬生忠見 (狩野安信画)

41 番、壬生忠見 (?—?)

恋すてふわが名はまだき立にけり

人しれずこそ思ひそめしか

訳：人知れずあの人を思いはじめたばかりなのに、もう恋している評判が立った。

勝負に負けた後、忠見が不食症にかかり亡くなったとの話が残されている。沙石集に「忠見心うく覚えて、心ふさがりて、不食の病付きてけり—中略— ついに身まかりにけり」と記述されているが、作話との説が多い。

50 番、藤原義孝 (954—974?)

君がため惜しからざりし命さへ

長くもがなと思ひけるかな

訳：貴方と会うためなら命も惜しくないと思っていたが、会えた今朝は長生きして逢い続けたい思うようになった

恋しい女性と初めて結ばれて翌朝詠んだ歌である。この時代に疱瘡が流行し、兄藤原挙賢 (たかかた) は朝に死亡、弟義孝はその夕に 21 歳で他界したとされる。義孝は死に臨み法華経をよみたいから火葬にしないように遺

言し、人々は才色兼備の貴公子の死を痛んだ。



藤原義孝



藤原道信

52 番、藤原道信 (972—994?) :

明けぬれば暮るるものとは知りながら

なほ恨めしき朝ぼらけかな

訳：夜が明けるとまた日が暮れると分かっているけど恨めしい朝ぼらけだなあ。

雪明りの朝に女の元から帰った後に贈った歌である。道信は一条天皇時代に活躍した歌人で容貌・才能ともに優れ、23 歳で夭折し、人々から惜しまれた。死因不詳。



小野小町



小野小町 (佐竹本)

和歌の世界を見ると、奈良や平安貴族の優雅な生活様式が伺われるが、伝説や不確かな話しか残されておらず、絶世の美女や容貌優れた貴公子かどうかとも確認できない。せめて、小野小町の肖像画でも見つければ、世紀の大発見となろう。小野小町には「深草少将百夜通い伝説」がある。深草少将は小野小町に求愛し「百夜欠かさず通ってくれたら結婚してあげる」と言われ、毎夜通うが九十九夜目に力尽き死んでしまう。男として、「そりゃ、あんまりだ！」と身につまされる話である。

肖像は菱川師宣画 (国立国会図書館蔵) を中心に掲載。

参考文献

島津忠夫、百人一首。角川ソフィア文庫

谷知子編、百人一首 (全)。角川ソフィア文庫、ビギナーズクラシックス。

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2021 年 11 月 18 日